

## 果てしなき絶景～マティスの旅と作品への反映～その1 (序とベル＝イル)

山本 雅晴

「果てしなき絶景～マティスの旅」というタイトルで、2023年7月29日にNHK-BS3で放映された。タイトルが魅力的だったので、大いに期待して鑑賞したが内容的には大いに不満だった。マティスの生涯に関する最も信頼できると思われる本：「マティス～知られざる生涯」、ヒラリー・スパーリング著、野中邦子訳、白水社、2012年発行に記述されている内容から主な「マティスの旅」を年代順にピックアップし、NHK放映番組と対応させてまとめてみることにした。次の本も参考にした。天野知香「もっと知りたいマティス」、東京美術、2016年発行。フランス国内のマティスの旅行先の地図は次回の＜その2：コリウール＞で表示する。

主なマティスの旅は下表に示した。このうちNHKではコリウール、モロッコ、ニース、ニューヨーク、タヒチが取り上げられていた。しかし、コリウールでのフォーヴィズム絵画に至る10年前の1895～97年夏のブルターニュのベル＝イルへの旅でピーター・ラッセルと出会ったことを外すことはできない。上述の本にもこのことは10頁にわたって詳述されており、ウィキペディアのマティスおよびラッセルの中にも記述されている。その記述の一部を借用する。「色彩を最優先にし、感情だけに従って描くこと。それは、ラッセル自身が1886年頃にゴッホと議論の末に行きついた方法論だった。自分が興味を持ったものだけ見て、それ以外のものに気を取られてはいけないー白、青、赤ーを使いたまえ・・・」。ピーター・ラッセル(1858～1930)は印象派に近いイギリスーオーストラリアの画家で「ゴッホの肖像画」が有名だが、オーストラリアの主な美術館ではフォーヴィズム調の作品も展示されているとのこと。また、彼の遺族が10点以上の作品をルーヴル美術館に寄贈し、ロダン美術館に委託されているらしいが見たことはない。ラッセルの妻はロダンのモデルだったためか？ 1896年の夏にベル＝イルの「イギリス人のお城」を何度かマティスも訪れた：「イギリス人のお城」はラッセルが1886年頃にゴッホと議論し、「新しい美術を創造するには世間から離れて隠遁できる芸術家の理想郷を造る必要がある」ということを、ゴッホがアルルで1888年に実現するより1年半早く実践していた。1886年秋にモネがベル＝イルに来て、39点の作品を描いているが、その時モネがここを訪れてラッセルと会っている。その10年後にマティスはモネが描いた同じような場所でベル＝イルの風景画をフォーヴィズム風やゴッホ調、印象派風などで描く試みをしている。1905年のサロン・ドートンヌでのフォーヴィズムデビューの10年前からの悪戦苦闘の一つの到達点であった。このような意味でベル＝イルへの旅はマティスにとって重要である。ベル＝イルを描いたマティスの油彩画は20点以上あるが、個人所蔵が殆どで展示される機会が少ない。図1にベル＝イルの海岸のピラミッド岩(ここを描いたモネの作品が2～3点ある)。図2はマティスの絵。



図1 ベル＝イルの海岸：コトン入江のピラミッド岩

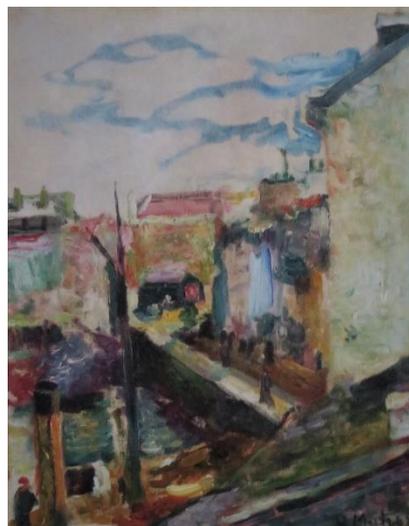


図2 ベル＝イルの港と家並み,1896年  
ボルドー美術館寄託(A.マルケ遺贈)

表 マティスの旅した主な場所と作品への反映

No.	期 日	旅 行 先	目 的	作 品	備 考
1	1895 夏,1896 夏,1897 夏 C.ジョブロー,マルグリット同伴 1897 年	ブルターニュ, <b>ベル＝イル</b> P.ラッセルはゴッホより早くここで芸術村を实践 パリのリュクサンブール	バカンス&修行 1896 年は3ヶ月滞在し、作品多数 シニャックと→→	原色・印象派風・ゴッホ風の習作多数は師モローや同僚から不評 「印象派展」を見る	P.ラッセルの助言 原色を大胆に使用→フォーヴィズム前兆 ←カイユボット蒐集
2	1898 年	ロンドン(美術館・ターナーに共感)→ <b>コルシカ島</b>	アメリーと結婚→新婚旅行・修行	コルシカの落日	1899 年セザンヌの「3人の浴女」購入
3	1901 年 1903~1904 1905、1906 年	パリ: <b>ベルネーム＝ジュヌサン＝トロペコリウール</b>	ゴッホ回顧展鑑賞 シニャック,クロス制作&バカンス	ゴッホの絵画のトライ 点描:豪奢/静寂/逸楽 <b>帽子の女、生きる喜び</b>	<b>フォーヴィズム</b>
4	1906 年	アルジェリア	取材、工芸品	青いヌード～ビスクラの思い出:1907	
5	1907 年	イタリア	制作	陶板画「ニンフとサチュロス」オストハウス	メティの工房で絵付陶器
6	1909 年～	パリ市街から郊外に転居	シチューキンから受注した大作作成	<b>ダンス、音楽、赤のハーモニー、</b>	<b>イッシ＝レ＝ムリーノ</b> に転居
7	1910 年 10 月	ミュンヘン	イスラム美術展を鑑賞		後のオダリスク作品など
8	1910 年 11~12 月	スペイン:グラナダ→→ <b>マドリッド</b>	イスラムの遺跡 ブラド美術館	立てるゾラ 1912	
9	1911 年	モスクワ	シチューキンの招待と作品制作取材	ダンス、音楽の設置場所見学	
10	1912~1913 年	<b>モロッコ・タンジール</b>	制作、取材	モロッコ三部作: 1912~1913、ムーア人のカフェ:1913	→モロゾフ購入 →シチューキン
11	1916 年夏・短期間 1917 年冬 1919 年 1920 年 7 月 1921 年~1938 年	マルセーユとニース マルセーユ経由ニースで冬を過ごす <b>ニース</b> エトルタ ニースでアパートを借りる	調査 カーニュのルノアールを訪ねる 制作 制作・静養 制作、夏はパリ	家族の肖像  数々の <b>オダリスク</b> 20点ほどの風景画	第1次世界大戦終わる ルノアール死去 マルグリット同伴
12	1930 年 2 月~6 月  1930 年 12 月	<b>アメリカ NY</b> →サンフランシスコ→ <b>タヒチ(3ヶ月)</b> アメリカ NY→メリオンでバーンズと打合せ →ボルチモア(17~18日)	取材  作品制作取材  長年の顧客のコーン姉妹を訪問	オセアニアの空・海 1946 年 装飾作品「 <b>ダンス</b> 」の制作打合せ コーン姉妹の肖像画	1927~次男ピエールは NY 画商 →完成は 1933 年
13	1938~42 年、 1949~54 1943~49 年	ニースのシミアのオテル・レジーナに居を移す ヴァンスのル・レーヴ荘	広い豪華オテルのアトリエ・居住 疎開・制作	<b>ヴァンスの室内画</b> <b>ヴァンス礼拝堂</b>	妻アメリーと別居、 リディア・デレクト ルスカヤの献身

